



村小だより

令和2年7月31日発行

確かな成長を実感して ～学校でも、家庭、地域でも～

校長 鈴木 正美

令和2年度1学期は、スタートしてすぐ新型コロナウイルスの流行に伴い「臨時休業」になりました。その後、再登校になっても「町内ごとの分散登校」が続きました。休業開始から1か月以上経って、通常登校となり、本日、例年より1週間ほど遅い終業式を迎えました。

この間、子どもたちは、新型コロナウイルスから身を守るために、どんなことに気を付けて生活しなければならないのかを繰り返し学び、その日常化に取り組んできました。家庭、地域の皆様や先生方に注意されたり、友達と教え合ったりしながら、安全で望ましい生活や行動ができる村小っ子を増やすことができたと思っています。また、予定どおり行えず「中止」「延期」「縮小」せざるをえなかった活動もありました。そのような状況でも、自分の力を伸ばす日々の学習や運動、楽しい学校生活を支える諸活動に、本気で取り組んだ村小っ子でもあったとふり返っています。

全職員でそれぞれの学年の成長ぶりを共有し、頼もしく、心強く、かつ有り難く思い、喜んでいくところです。子どもたち一人一人の成長を実感する1学期でした。

これも、家庭、地域の皆様からのご理解とご協力のおかげと、心から感謝申し上げます。

＜終業式校長講話から ～教育目標にかかわる「全校でがんばってほしいこと(3つ)」の評価～＞

今年度も、全校(248人)としての1学期の成績を発表します。学級担任の先生方(14人)から、自分の学級で「合格をあげられる子の数と、その内とてもよくできる子の数」を聞いて、全校の合計人数を出しました。自分はどうだったかなあと、ふり返りながら、見ていてください。

○1つ目の「人のお世話にならぬよう」

「人に迷惑をかけず、自分が成長するために、何事にも進んで取り組む」は、231人が合格(100点満点で93点)、その内「とてもよくできる」は、127人。

○2つ目の「人のお世話をするよう」

「人を優しく思いやる気持ちをもって、何事にも助け合いながら取り組む」は、238人が合格(96点)、その内「とてもよくできる」は、103人。

○3つ目の「そして、むくいを求めぬよう」

「ご褒美がなくても、学級・学校・地域のために学んだことを生かして取り組む」は、228人が合格(92点)、その内「とてもよくできる」は、129人。

「合格までもう少し」の人もいましたが、全体としては、合格ラインを突破した人がたくさんいて、とてもすばらしいと思います。

今年の夏休みは、8月1日(土)～8月19日(水)までと、例年より短くなりますが、子どもたちには、新型コロナウイルスから身を守る生活や行動を続け、「楽しい思い出、がんばった思い出いっぱい」の夏休みにしてほしいと願っています。家庭・地域での見守り、よろしくお願いします。